

## アトピー性皮膚炎の食事指導における発芽玄米利用の検討(第3報)

Pre germinated brown rice in diet for atopic dermatitis (III)

小林 裕美<sup>1)</sup>, 水野 信之<sup>1)</sup>, 寺前 浩之<sup>1)</sup>, 忽那 晴央<sup>1)</sup>, 平田 央<sup>1)</sup>, 曾和 順子<sup>1)</sup>,  
鶴田 大輔<sup>1)</sup>, 石井 正光<sup>1)</sup>, 伊藤 幸彦<sup>2)</sup>, 水口 彩<sup>2)</sup>, 喜瀬 光男<sup>2)</sup>, 青砥 弘道<sup>2)</sup>

1) 大阪市立大学大学院医学研究科皮膚病態学, 2) 株式会社ファンケル

Pre germinated brown rice (PGBR) contains plentiful of vitamins, minerals and GABA. We studied the effect of adding PGBR in daily diet for atopic dermatitis (AD) over 2 years. We enrolled 15 patients with recalcitrant AD resistant to conventional treatment. Clinical course and serological examination was monitored. No adverse reaction was noted in all cases. Six patients have continued to take PGBR over 2 years with clinical effectiveness and with decrease of serum IgE and LDH.

### 【目 的】

我々は、アトピー性皮膚炎の難治例に食養生を重視する漢方療法を併用し治療効果を高めてきた。漢方で推奨する和食の中心となる米について、発芽玄米利用の有用性を検討し、一昨年以來、本会にてその臨床経過を報告してきた。今回は、2年以上の長期経過を観察しえた6例について臨床検査項目毎の検討を加えた。

### 【対 象】

通常の治療のみでは皮疹の消失が得られない難治アトピー性皮膚炎で、インフォームドコンセントの得られた患者15名のうち2年以上経過観察した6名。年齢18から33歳、男性4名、女性2名。

### 【方 法】

それまでの治療を原則として変更せず、発芽玄米(ファンケル製)1日100~200g摂取を加えた。臨床症状は皮疹なしから重症までの6段階評価を行ない、6か月以上の経過を重視し3段階以上の改善を著効、2段階を有効、1段階をやや有効とした。血液生化学的検査、血中サイトカイン等についても経時的に検査した。また、発芽玄米摂取の受け入れについてアンケート調査を行なった。

### 【結 果】

2年以上経過観察例は15例中6例で、うち4例は有効、2例がやや有効であった。残り9例中1例は継続摂取希望せず8例は来院困難によるもので、いずれも摂取後の悪化は認められなかった。全例において、血液生化学的検査にて血液学的異常および肝機能障害は認められなかった。また、摂取前および2年後の比較においてIgE値、LDH値のいずれも摂取後、明らかに低下していた。

### 【結 論】

アトピー性皮膚炎の食事指導に発芽玄米を利用することが有用な例が存在する。その効果発現は徐々に現れ、臨床症状、検査値ともに2年以上の経過観察において、より明らかに示されることが判明した。食の長期にわたる影響について検討をさらに進めたい。